

## 令和7年度第1回慢性腎臓病（CKD）予防対策部会 議事概要

### 1 日時

令和7年7月10日（木曜日）18：50～20：00

### 2 場所

埼玉教育会館 403会議室

### 3 出席者

〈委員〉（敬称略）

登坂 英明（一般社団法人埼玉県医師会 常任理事）（部会長）

雨宮 守正（さいたま赤十字病院院長補佐・部長）

〈事務局：健康長寿課〉

課長 植竹淳二、副課長 古海史予、主査 浅原功次、技師 新井里美

### 4 議事

#### （1）内容1 慢性腎臓病（CKD）予防対策部会について

ア 事務局から説明（資料1）

イ 質疑、意見等

・雨宮委員

（慢性腎臓病の悪化を予防することによって）身体障害者手帳（腎臓機能障害）の交付数が減少できるとよい。本部会が当面の目指す目標として、身体障害者手帳数（腎臓機能障害）の交付数減少を掲げてはどうか。

・登坂部会長

（そのためには、適切なタイミングで）かかりつけ医から慢性腎臓病（CKD）の専門医に繋がれるとよい。

・雨宮委員

かかりつけ医からの紹介で専門医を受診する患者の約半分は、eGFR値が高い。蛋白尿での紹介は少ないため、eGFR値、尿蛋白どちらも確認してもらえるとよいのではないか。

・登坂部会長

簡単なパンフレットを作り、県民とかかりつけ医に向けて、慢性腎臓病の予防について発信するのはどうか。

また、透析準備段階になる前に専門医に紹介できるように、紹介基準を数値化するのはどうか。

・雨宮委員

ゆるやかでよいが基準があることは望ましい。クレアチニン値は体格で異なるので、eGFR値の基準を検討できるとよいのではないか。

・登坂部会長

まずは部会として、県民向け、かかりつけ医向けにパンフレットの作成し、慢性腎臓病（CKD）の悪化を防ぐことを目標とする。

(2) 内容2 令和7年度のスケジュール等について

ア 事務局から説明(資料2)

イ 質疑、意見等

・事務局

慢性腎臓病(CKD)に係る知識や発症予防に関する普及啓発、特定保健指導の保健指導者に対する研修等を実施する予定である。については委員の方々に御指導、御協力をお願いしたい。

- \* 協議の結果、雨宮委員にラジオでの啓発と研修会講師、長谷川委員に県民対象啓発動画の講師と県民向け広報誌の監修を依頼することが決定した。

(3) 内容3 埼玉県の現状

ア 事務局から説明(資料3、4) ※資料4は非公開

イ 質疑、意見等

・雨宮委員

埼玉県は、全国で約15番目に透析患者が少ない。東京は3位である。東京ベースで考えれば、埼玉県は何千人か減っていく可能性はある。

・登坂部会長

糖尿病性腎症による透析導入患者は、透析導入後から死亡に至る期間が短いのか。

・雨宮委員

昔に比べると、(透析への導入時期が遅くなっている)短くなっている。現在は、透析導入に至る平均年齢は70歳であるが、これを85歳にできるとよいと考えている。

・登坂部会長

70歳前後で透析導入となる方は、それまでの生活習慣病が原因になっていることが多い。

・雨宮委員

透析導入になる前から生活習慣病対策を行うことが重要である。また、健康寿命と平均寿命の差が開かないようにすることが重要である。

・登坂部会長

身体障害者手帳の交付数だけで見るのではなく、背景にも着目していかなければならない。

(4) 内容4 埼玉県における慢性腎臓病診療連携の進捗状況

ア 事務局から説明(資料5) ※資料5は非公開

イ 質疑、意見等

・登坂部会長

長谷川委員と調整し郡市医師会長会議で進捗状況を説明する予定。

・雨宮委員

病診連携を実施していただいている郡市医師会が増えてきたと思う。